

研究紀要

《 第 4 5 号 》

令和 7 年度

秋田県立秋田西高等学校

目 次

研 究

今年度の取り組みについて	1
--------------------	---

校内研究授業

学習指導案・授業研究会記録

○芸術科	教諭 宮 腰 幸 恵	2
------------	------------------	---

研究会記録	9
-------------	---

○家庭科	教諭 齊 藤 浩 幸	1 1
------------	------------------	-----

研究会記録	1 5
-------------	-----

研 修

○基本研修講座（A講座）

中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)	教諭 渡 辺 光	… 1 7
---------------------	----------	-------

新任学年主任研修	教育専門監（兼）教諭 加 藤 昌 宏	… 1 8
----------	--------------------	-------

○専門研修講座（講座）

講座番号C-37学校におけるICT活用の基礎	教諭 和 田 悦 子	… 2 1
------------------------	------------	-------

今年度の取り組みについて

I 取り組み

「各種研修情報を紹介し、教職員の資質向上を図る」「教職員のニーズに応じたICTの利活用等の研修会を実施する」という重点目標を立て取り組んだ。

II 実施状況

ICT機器については相当数の先生方が有効に活用している。授業においてタブレット、電子黒板、書画カメラ(実物投影機)、スクリーン等を様々な場面で活用し、生徒の動機付けにもつながっていると思われる。またAIの劇的な普及により、生徒が調べ物学習や、作文の添削等でChat-GPTやGeminiを利用することにより、効率的な学習が可能になった。

今年度も昨年度と同様に前後期1回ずつ、Formsで一斉に授業アンケート実施した。集計や棒グラフが自動作成され、結果が見やすくわかりやすい。この結果は各教員の授業の振り返りや今後の授業改善へのモチベーションとなり、また生徒の自己評価も授業における取り組みの向上に繋がることと思う。

III 成果と課題

上記の授業アンケートの結果を各教員にフィードバックして、授業改善に活かすことができた。授業アンケートについては、自由記述欄を設けたため、生徒の「生」の意見も知ることができた。来年度以降も同様の方法で継続していく予定である。

また、例年通り前期1回、後期1回、合計2回の授業改善参観期間を設けた。原則として各教員2回の参観を求めた。後期の参観期間においては授業者が事前に授業の見所等を記載した「見に来てシート」をホワイトボードに貼ることにより、参観率が向上するような試みを行った。昨年度に比べて、参観率はかなり高くなった。次年度以降も継続して取り組む価値はあると感じている。

昨年度、実施した「自動採点支援システム」の研修の甲斐もあってか、「百問繚乱」を利用して採点する先生方が増えた。操作に慣れるまでは設定等に時間を要するが、採点に費やす労力・時間は大幅に削減される。

IV 学校評価アンケート結果

「工夫ある授業と学力の向上」の項目にあげられた良かった点を紹介する。

- ・学力向上のためICTの活用や協働活動を意識的に取り入れるなど授業の工夫がされている。
- ・どの教科においても、生徒が協働的に学ぶスタイルの授業が増えているように感じる。
- ・授業内での演習時間を確保し、生徒一人ひとりの理解度を確認しながら授業を進めた。

V 最後に

この紀要の作成にあたり、寄稿して下さった先生方に感謝申し上げます。

来年度はより多くの先生方が研修に参加し、その成果を本校での教育活動に活かしていただくことを期待しております。

研 究

芸術（美術1） 学習指導案

指導日時 令和7年10月6日（月）

実施対象 1年C組美術選択者

（男子13名、女子10名、名計23名）

授業者 宮腰 幸恵

教科書 高校生の美術（日本文教出版）

1. 題材名「立方体アート」～立方体から広がる創造力～

【美術I】 A表現(1) 絵画・彫刻ア(ア)(イ)イ(ア)(イ) B鑑賞(1) ア(ア)、〔共通事項〕ア、イ

2. 題材について

(1) 生徒の実態

真面目に課題に取り組める生徒が多いが、イメージや想像を膨らませることが苦手な生徒もいる。今までの学習の様子から構想を練ることや試行錯誤する活動体験が少ないことが原因ではないかと感じている。

(2) 題材の設定理由

- ① 頭の中でどのように立体になるかを想像し、完成をイメージしながら試行錯誤する経験を積ませ、構想力や創造力を伸ばしたい。
- ② 造形パターンを理解し、それを自己の表現したいことに合わせ、合理的、計画的に制作を進めていくことにより、多様な造形変化を生み出すことが可能であることに気づかせたい。
- ③ 失敗経験から学ぶこと、試行錯誤の積み重ねが新しい価値を生み出していることを認識させたい。

(3) 題材の概要

ケント紙で作った立方体を基本とし、展開図を切り抜き、組み立て作品を完成させる。切り抜く図案や組み立てできる形体は自然や規則性、文様などから感じ取ったことをもとに主題を生成する。その過程で、表現意図に応じて展開図の選択や、図案の位置調整、強度、素材の生かし方について考え、創造的な表現を目指す。また、完成した作品を鑑賞し合い、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の制作意図と造形的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。

3. 指導上の工夫

構想が練りやすいように学び合いの時間を設定するとともに、試作を繰り返したり失敗をしてもすぐにやり直したりできるように使用する紙や道具を十分に準備し、生徒の活動意欲を妨げないようにする。

4. 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

・造形要素の働きを理解したり、素材、形体の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えたりすることを理解する。 [共通事項]

・意図に応じて素材や用具の特性を生かすとともに表現方法を創意工夫し主題を追求して創造的に表す。

[A表現イ(ア)(イ)]

(2) 「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標

・作品鑑賞と自然や規則性、文様などから感じ取ったこと考えたことをもとに主題を生成し、形体の面白さや独創性や構造の強さ、素材の生かし方について創造的な表現の構想を練る。

[A表現ア(ア)(イ)]

・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図と造形的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。

[B鑑賞ア(ア)]

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・試作やアイデアスケッチ、他者のアイデアを参考に、主体的に創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図について考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

(2) 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 造形要素の働きを理解したり、素材、形の造形的な特徴などを基に、条件を抑えながら全体のイメージや作風などで捉えることを理解したりしている。</p> <p>技 意図に応じて素材や用具の特性を生かすとともに表現方法を創意工夫し主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>発 作品鑑賞と自然や規則性、文様などから感じ取ったこと考えたことをもとに主題を生成し、形体の面白さや独創性や構造の強さ、素材の生かし方について創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図と造形的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 試作やアイデアスケッチ、他者のアイデアを参考に、主体的に創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図と造形的な表現の工夫などについて見方や感じ方を深める鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

5.全体指導と評価の計画（8時間） 今後の指導に生かす評価 観点別学習状況の評価に用いるもの

時間	●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法 ・留意点
2 (1/2本時)	<p>1. 作品鑑賞と題材・素材の理解</p> <p>●過去作品から表現の意図と工夫点、学習を通して身につけられる能力と題材の目標について理解を深める。</p> <p>・過去作品の鑑賞を通して、必要な知識と技能について知る。</p> <p>・必要な知識として立方体の展開図を確認し、種類分けをすることで今後活用しやすくする。</p> <p>・見本作品と同じ作品を制作し（模作）、紙や用具の特性と使い方について体験的に理解を深め、制作工程と「のりしろ」など細の必要性とについて確認する。</p>	<p>知</p> <p>技</p>		<p>態表</p>	<p>態表</p> <p>活動を通して、今後の活動への見通しを持ったり、主体的に考えを深めたりする活動ができているかどうかを、学習活動に取り組む態度を見て取る。</p> <p>【発言の内容、ワークシート、活動の内容】</p> <p>知</p> <p>造形の要素の働きを理解しているかどうかを評価する。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>・理解を深めるために、ペアワーク、グループワークに発展させることや、発想や構想を促す正方形の紙やワークシートを準備し、答えを導き出す喜びや達成感を味わえるようにする。</p> <p>技</p> <p>模作を通して素材や用具の特性について理解を深め、制作工程とのりしろの必要性を確認できたかを見取る。</p> <p>【模刻作品、ワークシート】</p>

1	<p>2. 発想や構想</p> <p>●主題を生成する。</p> <p>・模作を通して理解を深めた制作工程を踏まえ、過去作品の鑑賞と自然や規則性から感じ取ったこと考えたことをもとに主題を生成する。</p>		発	<p>発</p> <p>模作の活動を通して得たことや、過去作品から感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生成できているかどうかを見取る。</p> <p>【ワークシート、マケット、活動の様子】</p> <p>・主題の生成に意欲的に取り組めない生徒に対し、過去作品の鑑賞を再度促し、造形要素の効果や、表現の工夫点に注目させ、自己の主題の生成に生かす指導を行う。また相互鑑賞の時間を設け、発想のきっかけを増やす。</p>
2	<p>●主題をもとに構想を練る。</p> <p>・生成した主題をもとに、形体の面白さや構造の強さ、素材の生かし方について考え、ワークシートに整理したり、アイデアスケッチをしたり、試作品を作ったりして、創造的な表現の構想を練る。</p>	知	発	<p>知</p> <p>造形要素の働きを理解し、素材、形の造形的な特徴などを基に、条件を抑えながら全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを見取る。</p> <p>【ワークシート、マケット、活動の様子】</p> <p>発</p> <p>形体の面白さや構造の強さ、素材の生かし方について考え、ワークシートに整理したり、アイデアスケッチをしたり、試作品を作ったりして、創造的な表現の構想を練っているかどうかを評価する。</p> <p>【ワークシート、アイデアスケッチ、試作品】</p> <p>・構想について意欲的に取り組めない生徒や、構想をよりよく練り上げる活動を深めさせるため、相互鑑賞の時間を設ける。</p>
2	<p>3. 制作</p> <p>●発想したことや構想したことをもとに創造的に表す。</p> <p>・発想や構想したことや意図に応じて素材や用具の特性を生かすとともに表現方法を創意工夫し主題を追求して創造的に表す。</p>	知・技	態表	<p>態表</p> <p>試作やアイデアスケッチ、他者のアイデアを参考に、主体的に創造活動に取り組もうとしているかどうかを見取り評価する。</p> <p>【制作途中の作品、活動の様子】</p>

	<p>・制作途中に相互鑑賞を行い、他者の作品の良さを取り入れたり、表現の意図や創意工夫点を説明したりすることにより、自己の完成像を明確にしていくなどしながら作品を完成させる。</p>			<p>知・技 意図に応じて素材や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して創造的に表しているかどうかを見取るとともに、造形要素の働きを理解したり、素材、形の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えたりすることを理解できているかを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。 【作品、ワークシート】 ・失敗することが多い課題のため、やり直しに時間がかかることがある。すぐに作り直せるように指導するとともに、失敗例を全体で共有していく。また、早くできた生徒に対しては、さらに工夫できるところがないか見直させたり、構想をさらに発展させた作品に取り組みせたりし、意欲を高める指導をする。</p>
1	<p>4. 鑑賞 ●生徒作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから具体的な根拠をもって批評し合う。 ・表現の学習活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深める。</p>	鑑	態鑑	<p>態鑑主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図と造形的な表現の工夫などについて見方や感じ方を深める鑑賞の創造的活動に取り組みようとしているかを見取り評価する。 【発言の内容、ワークシート、活動の様子】 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図と造形的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深められているかを見取り評価する。 【ワークシート】 ・具体的な批評ができていない生徒に対して、細部の造形を鑑賞することと、全体のイメージで鑑賞することの違いを意識させ、作者の意図が現れていると感じる点や、他作品にない独自の表現を探させる指導を行う。</p>

6. 本時の指導計画（1／8）

（1）本時の目標

- ①過去作品の鑑賞から今後の学習内容について見通しを持たせ、題材を通して身につけられる能力を意識させる。
(主体的に学習に取り組む態度の養成)
- ① 制作活動に必要な立方体の展開図を、頭の中で頭の中で想像し構想力や創造力を伸ばす。
(思考力・判断力・表現力の伸長)

（2）本時の評価基準及び評価方法

- ①主体的に学習に取り組む態度の「態表」について【発言の内容と活動の様子】から見取る。
- ②知識・技能の「知」について【ワークシート】から見取る。

（3）本時の準備物

生徒：筆記用具

教師：方眼紙、ワークシート、過去作品（作品例）、正方形の紙、色鉛筆

（4）指導計画

過程時間	学習活動と「予想される生徒の姿」	指導の工夫	評価と手立て
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名の提示 ・過去作品の掲示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問 今まで制作してきた平面の作品とは、何が違うだろうか？ 作品を制作すると、どんな力が身につくだろうか？</p> </div> <p>予想する発言 「立体である」「絵の具を使っていない」 「色が無い」「紙を切る力」「折る力」「作る力」など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り方について、ケント紙1枚から自分で展開図を書いて組み立てることを説明。 ・題材を通して身につけてほしい力を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言を共有できるようにする ・学習する意義について意識させる。 	
展開① 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本時のねらい 制作に必要な立方体の展開図を利用し、想像する力を鍛えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【問い1】 立方体の展開図は（ ）種類か</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの配付 ・種類についての説明(回転や裏返して同じになる組み合わせ同士は1通りとみなす) 「早い生徒、元々知っている生徒は、8個程度を書き出すことができる」 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で活動（10分） 	<p>態表主体的に創造活動に取り組もうとしているかどうかを見取り、本時の活動に生かす。 【発言の内容と活動の様子、ワークシート】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・展開図を想像しやすくするため正方形の紙を配付。 ・「立方体の展開図は11種類」 答え合わせ→全種類をワークシートに記入。 ・展開図の違いによって、効果的に表現できる例を挙げ、意図に応じて展開図を選ぶことの重要性を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで展開図を考えさせる。状況によって、グループワークに展開させる。 <p>(10分)</p>	
展開② 10分	<p>【問い2】 ②展開図を覚えやすいように種類分けしよう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・②について考えさせる ・グループ分けの方法について共有 「T字型、L字型、十字型」 「4枚並ぶ型、3枚並ぶ型、2枚並ぶ型」 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話し合い、考えをまとめさせる。 <p>(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で情報共有を図る。 	
展開③ 8分	<p>【問い3】 ③組み立てたときに、接着する辺に同じ色で印をつけるとする。色は何色必要か。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・色ペンの配付 ・ワークシートに実際に塗って答えを導き出させる。 「全て色を塗り、色数を数えて導く」 「途中で、展開図すべてが分離されていない辺が5本あることに気づく」 ・立方体の辺は12本 展開図で着色する必要の無い辺は5本 $12 - 5 = 7$ で7色必要 ・のりしろの取り付け位置について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで活動させ、短時間で答えが導き出せるようにする。 	<p>態表主体的に創造活動に取り組もうとしているかどうかを見取り、本時の活動に生かす。</p> <p>【発言の内容と活動の様子、ワークシート】</p>
整理 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りの記入 ・本時の感想の共有 ・次回の授業予告 ・後片付け、提出 		<p>※態表 主体的に創造活動に取り組もうとしていたかどうかを見取り評価する。</p> <p>【振り返りシート、ワークシート】</p> <p>※知 立方体の展開図が持つ、造形要素を理解したかどうかを評価する。</p> <p>【ワークシート】</p>

※の評価は、授業後に行う。

【授業研究会の記録】

期日	令和7年10月6日（月）	記録者	岩田朗子	授業者	宮腰幸恵
<p>指導助言：小森哉子主任指導主事（秋田県総合教育センター）</p> <p>司 会：大堤直人</p> <p>参加者：金足農業0名 本校職員11名 （大堤・大関・伊藤真司・糸井・江島・田仲・齋藤・阿部・佐々木・岩田・児玉）</p>					
<p>1. 授業者より</p> <p>今回の授業は、授業研究用の特別なものではなく、普段から行っている内容で、毎年、生徒の事情に合わせ、改良しながら実施している教材である。近年の生徒は漫画やアニメなどは好きで、平面には肥えているが、三次元になったときにその構造の裏側が想像できていないと感ずることがある。立体について考えることにより、ものを組み立てる力がつき、実際の生活にも役立つと考えられる。今日の題材「立体を展開する」は、材料は、ケント紙、のり、カッターなど普通教室でできる教材である。内容的には小学校4年生の題材であるが、基本的な知識を忘れていた生徒たちも多く、美術でやる必要があるのかと思いつつも実施している。皆さんの意見を伺いたい。今日の授業では生徒たちは最後まで集中してよくやっただと感じた。指導案中で、主語が「私」になっている箇所があり、訂正したい。</p>					
<p>2. 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標はこれだよと教師が提示しがちであるが、この作業を通じて何ができるようにするか生徒に考えさせ、動機付けとしていた。効果的であった。 ・規則性とか、数学や化学に共通するところがあった。展開図がイメージできない生徒もいたが、ペアワークによる学び合いあり、最後まで、集中がきれなかった。 ・立体アートについては感性が必要と思っていたが、理論も要することが分かってよかった。 ・展開図を考える時間配分について、前半を短めに、ヒント袋を早めに出してもいいのでは。 ・「失敗したら残しておいてもいいよ。」という言葉が生徒への励ましになり、また、次につながると感じた。 <p>（授業者・失敗のメリットもある。失敗した生徒が最後に良い作品を作ることもある。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の指導計画について、過去の作品の表現の意図や工夫点についての掘り下げが見えてこなかった。今回の授業の内容としては「立方体の仕組み」と言えるのではないか？ <p>（授業者・次時に過去作品を見て模倣するという展開。過去作の分析についても次時の内容としたい）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく準備されており、スライドやヒント袋はもちろん、過去作を黒板に展示するなど黒板の使い方もとてもよかった。生徒が作業内容をよく理解できる仕組みであった。ただ、展開図の書き方やルールについての共通理解が最初にあるとよかったのでは。 ・芸術科目については、生徒の認識では、こなせばいいと思いがちであるが、どういう力をつけることができるかを生徒に考えさせることによって、最後までやる気につながった。 ・頑張る生徒の姿がみられた。生徒の良さを引き出していた。ヒント袋の意図は？ 					

(授業者・生徒が行き詰まったときの自分で考えるための道具として、また、机間巡視のさい、自分もヒントを出しやすい)

・ペース配分がよかった。作業の制限時間を示すときの基準は？

(授業者・クラスの様子をみながら決めている)

・生徒が皆、主体的に課題に取り組む姿があり、充実した時間だった。教師の生徒に対する見守りが非常によかった。

3. 指導助言

(良かった点)

◎導入部について、生徒が活動の見通しを持つことができていた。作品を提示し、生徒の気づきを拾い上げ、題材の表現形式など生徒と一緒に確認できていた。

◎展開部について、立方体の展開図を考える場面、先生の手立てが効果的であった。種類分けについては、のりしろの必要性など、次回への見通しにつながった。

◎ワークシートについて、これからの活動に意欲を持つことができ、また、振り返りにも有効であった。

◎生徒が安心して活動していけるよう、気を配って計画が立てられ、実施されていた。

(改善点)

より主体的に学ぶために、「何を学ぶのか?」「その題材で身につけたい力は何か?」を明らかにするためにも、「作品の表現の意図」に触れたい。どの場面で、どのように触れるべきか、例えば、「作品」に題名をつけるなど、「何を表しているのか?」につながる工夫をしてもらいたい。本時では技能的なところが主となっていた。高校だけではなく中学校の指導要領も参考にして、身につけたい力を常に意識して、授業の主題を考えてもらいたい。

授業者まとめ

[成果]

今回の研究授業は、数年継続して実施している題材を実施した。生徒に実態に合わせ毎年導入内容を工夫してきた授業である。生徒が飽きることなく意欲的に取り組む姿勢を見せてはくれたが、説明不足や無駄な活動があった。改善点や疑問点を様々な角度から指摘していただき、客観的に授業を振り返る難しさと、教師側の独りよがりな考えに気づくことができた。芸術教科は、各校に1人しかいないことが多く、他の指導者と比べたり、客観的な視点で自分の授業を振り返ったりすることの難しさを感じていたため、大変貴重な時間となった。

[課題、要望など]

授業の目標としていた過去の作品の表現の意図や工夫点についての掘り下げがなく、技術面に偏っていた。芸術科目の重点である「主題を生成」に対して、さらに効果的な手立てや活動の充実を図っていくべきである。本題材で何を身に付けさせたいのかを授業者が明確にすることで、省ける活動や、重点的に時間をかけて行うべき活動が見えてくる。「指導と評価の一体化」を考え、授業の改善に取り組んでいきたい。

家庭科 教科「家庭基礎」学習指導案

実施日：10月6日(月) 5校時
授業者：秋田西高等学校 齊藤 浩幸
対象生徒：1年A組40名
場 所：1年A組教室
使用教科書：家庭基礎 気づく力 築く未来 (実教出版)

1 単元名

社会の一員として子どもの幸せをつくる

2 単元の目標

- (1) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切にかかわるための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 子供の健やかな発達のために、親や家庭及び地域や社会の果たす役割の重要性について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに乳幼児と適切にかかわるための基礎的な技能を身に付けている。	子供の健やかな発達のために、親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 生徒の実態

家庭科の学習に対しては意欲的な生徒が多く、特に自己の考えを表出したり他者の考えを受容したりする活動には意欲的である。自分になかった新たな考え方や価値観に触れた際の驚きや自分の考えの変化を素直に表現できる生徒もいる。

5 指導観

令和5年4月に施行された「こども基本法」は、子どもを社会の「まんなか」に置き、その健やかな成長と幸福を社会全体で実現する理念を掲げている。この法律は、多様な価値観が広がる現代社会において、改めて子どもを大切にするという当たり前の考え方を再確認し、全ての国民がその幸福に寄与する社会の必要性を強く訴えている。本単元では、このような社会背景と子どもの捉え方を批判的に見つめ直し、現代社会における子どもを取り巻く問題を発見し、その解決策を生徒自身が主体的に構想する学習活動を展開する。その際、個別最適な学びとして生徒一人ひとりが自身の関心や将来のライフプランに基づき、子どもを支える親や家庭、地域、地方公共団体・国といった様々な主体が果たす役割について多角的に分析し、それぞれの立場から「子どもの幸せ」について深く考察する機会を設ける。これにより、多様な価値観をもつ生徒たちが自身の課題として子どもの幸せを捉える当事者意識を高めることを目指す。また、協働的な学びとしてグループで意見を共有し多様なアプローチを議論する機会を多く設ける。それぞれの考えを共有し評価し合うことで、より多角的な視点から課題の解決策を探求し、互いの学びを深める。単元学習後、義務感からではなく「子どもをサポートしたい」というポジティブな気持ちで育まれるような授業構成と雰囲気づくりを重視し、生徒一人ひとりが子どもの幸せを願い、その実現に貢献する一員となる意識を高めさせたい。

6 指導計画(8時間)

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1 子どもの幸せを実現するための「自己課題」とは | 1時間 |
| 2 子どもの幸せをつくる「大人」とは | 4時間(本時1/4時間) |
| 3 子どもの幸せをつくる「社会資本」とは | 2時間 |
| 4 子どもの幸せをつくるために | 1時間 |

7 本時の計画

(1) 本時の目標 (ねらい)

子どもの健やかな発達を支えるために、妊娠から出産に至るまでの期間における親や家族及び地域社会の果たす役割について考え、具体的に表現することができる。

(2) 展開

評価の観点 A: 知識・技能 (技術) B: 思考・判断・表現 C: 主体的に学習に取り組む態度

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	1. 本時の目標を確認する。		
妊娠～出産の母体と胎児の特徴を理解し、「子どもの幸せをつくる」ための立場別配慮事項を提案する。			
展開 40分	2. 妊娠から出産までの大まかな流れを確認する。 3. 妊娠期間中の母体と胎児の特徴について確認する。 4. 2, 3の学習事項をふり返りながら、「子どもの幸せをつくる」ための立場別配慮事項について考え、表現する。 5. グループで4の内容を共有し、配慮事項についてまとめ直す。 6. 5について、クラス全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠や出産をより現実的に捉え、考えることができるよう資料提示を工夫する。 ・妊娠初期から後期にかけてのそれぞれのステージでのリスクを明確にすることで、妊婦への具体的な配慮事項への気づきを促す。 ・妊婦と胎児の日常生活における様々なリスクから、具体的な配慮について考えるように指示する。 ・ワークシート②(1)～(3)の立場と妊婦との距離感を具体的にイメージするよう促す。 ・他者の意見を否定しないことを指示する ・考えを深められるよう、必要なことは適宜メモをとるよう促す。 	評価方法：ワークシート (B) 子どもの健やかな発達を支えるために、妊娠から出産に至るまでの期間における親や家族及び地域社会の果たす役割について考え、具体的に表現している。
まとめ 5分	7. 本時を振り返り、自分の思考をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の現時点でのライフプランから、これからの生活で意識することを自分事として考えるよう促す。 	

目標: 妊娠～出産の母体と胎児の特徴を理解し、「子どもの幸せをつくる」ための立場別配慮事項を提案する。

1 妊娠～出産

(1) 妊娠期間 ⇒ (最終月経の開始)日から数えて約(40 週間(10ヶ月))

(2) 妊娠発覚後の流れ

- ① 妊娠の兆候 《 (基礎体温)の上昇、(月経)がとまる 》 ⇒ 医師の診察を受ける
- ② (妊娠届)を(市町村役場)に提出。⇒(母子健康手帳)の交付を受ける
- ③ (妊婦検診)を受ける [有料(申請により回数制限付きで無料)]
- ④ (分娩)=《 胎児(出産)+(後産)》 **妊娠終了!**
- ⑤ (産褥)期… 母体が妊娠前の状態に(回復)するまでの期間 ※(6～8)週間。心身ともに不安定になりやすい。



(3) 妊娠中の特徴

	母 体	胎 児	
妊娠初期 (1～4ヶ月)	<input type="checkbox"/> 基礎体温上昇、眠い、だるい <input type="checkbox"/> (つわり) ⇒(吐き気)、(食欲不振)、(嘔吐) ※胎児の発育に悪影響(☑避けるべき) 飲酒、喫煙、薬、感染症(風疹、性感染症等)、 生肉(トキソプラズマ)、X線照射、ストレス、カフェインなど	0～15週 <input type="checkbox"/> 器官形成が最も活発なとき 外界の影響 大	(流産)しやすい
妊娠中期 (5～7ヶ月)	<input type="checkbox"/> 安定期 <input type="checkbox"/> つわりがなくなる ⇒食欲 UP ⇒(体重)増加に注意 ☑バランスのよい食事と適度な運動 ☑十分な睡眠・休養	16～27週 <input type="checkbox"/> 安定期 <input type="checkbox"/> 骨格ができ、手足の動きがみられる = (胎動)	(人工妊娠中絶)可能期間
妊娠後期 (8～10ヶ月)	<input type="checkbox"/> 妊娠(高血圧)症候群に注意。 ⇒胎児発育不全+母子死亡の原因となる ☑バランスのよい食事と適度な運動 ☑十分な睡眠・休養 ☑妊婦検診の定期受診	28～40週 <input type="checkbox"/> “胎動”が活発になる 37週	(早産児)

2 1)の学びから、「子どもの幸せのために妊婦さんへの配慮すべきこと」を以下の立場別にまとめてみよう。

1) 妊婦さん本人	2) パートナー・家族	3) 地域住民・他人
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ふりかえり 今日の学びを踏まえて、あなたがこれからの生活で意識していくことは何ですか？

胎児がものすごく影響を受ける時期。
 男女共におなかの赤ちゃんのことを考えて生活しなきゃならん！
 女性にとって身体的にも精神的にも不安定でとても大変な時期。支えるのが男性。役割重要！！

目標: 妊娠～出産の母体と胎児の特徴を理解し、「子どもの幸せをつくる」ための立場別配慮事項を提案する。

1 妊娠～出産

(1) 妊娠期間 ⇒ () 日から数えて約()

(2) 妊娠発覚後の流れ

- ① 妊娠の兆候 《 () の上昇、() がとまる 》 ⇒ 医師の診察を受ける
- ② () を() に提出。⇒ () の交付を受ける
- ③ () を受ける [有料(申請により回数制限付きで無料)]
- ④ () = 《 胎児() + () 》 **妊娠終了!**
- ⑤ () 期… 母体が妊娠前の状態に() するまでの期間 ※() 週間。



(3) 妊娠中の特徴

	母 体	胎 児	
妊娠初期 (1～4ヶ月)	<input type="checkbox"/> 基礎体温上昇、眠い、だるい <input type="checkbox"/> () ⇒【吐き気・食欲不振・嘔吐など】 ※胎児の発育に悪影響(☑避けるべき)	0～15週 <input type="checkbox"/> 器官形成が最も活発なとき 外界の影響 大	() () () ()
妊娠中期 (5～7ヶ月)	<input type="checkbox"/> 安定期 <input type="checkbox"/> つわりがなくなる ⇒食欲 UP ⇒ () 増加に注意 ☑ バランスのよい食事と適度な運動 ☑ 十分な睡眠・休養	16～27週 <input type="checkbox"/> 安定期 <input type="checkbox"/> 骨格ができ、手足の動きがみられる = ()	
妊娠後期 (8～10ヶ月)	<input type="checkbox"/> 妊娠() 症候群に注意。 ⇒胎児発育不全+母子死亡の原因となる ☑ バランスのよい食事と適度な運動 ☑ 十分な睡眠・休養 ☑ 妊婦検診の定期受診	28～40週 <input type="checkbox"/> “胎動”が活発になる 37週	

2 1の学びから、「子どもの幸せのために妊婦さんへの配慮すべきこと」を以下の立場別にまとめてみよう。

1) 妊婦さん本人	2)	3) パートナー・家族	4) 地域住民・他人
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ふりかえり 今日学びを踏まえて、あなたがこれからの生活で意識していくことは何ですか？

【授業研究会記録】

期日	令和7年10月6日(月)	授業者	齊藤 浩幸	記録者	渡辺 光
指導助言：部谷 靖子 主任指導主事 司会：三浦 朋子 参加者：本校16名					
1. 授業者より 今回の授業は、内容から研究授業向きではないかもしれないが、それぞれの立場と価値観から批判をいただきたいと思います。批判的な意見やアドバイスをよろしくお願いします。また、本時の目標を達成する手段として本時の授業が適切であったかという視点でご意見をいただけるとうれしいです。					
2. 協議 初めにグループ別の協議を行い、そのあとに各グループから報告を行った。					
1班 渡辺光 本時の内容の場合、今回とは異なり、知識の獲得から生徒が自ら行うという学習スタイルも可能である。しかし、本時の目標を踏まえると、後半のグループワークに時間をかけることで生徒自身が当事者意識をもってこのことに取り組むことができるようになるのでよかったのではないかという意見が出た。					
2班 小林先生 本時に臨むにあたって、前提となる知識の習得状況や当事者意識の有無など、前時までの様子はどうであったか。(回答：前時に知識を身に付けることを行っている。また、この単元の内容に対する自身の課題を見つけるという学習活動を行っている。)本時の目標にもある「子ども」の定義や「子どもの幸せ」の定義を生徒が適切にもっているのか、関心がある。(回答：あまり詳しく話していないが、前時の授業でも生徒からもそうした点について質問があった。)プリントの2(3)をもっと充実させるではどうか。					
3班 杉山先生 生徒が自分事として考えることができるなど、授業の工夫が様々な場面に見られた。プリント2(3)では、高校生目線が多かったので、社会の一員としての目線もあってもよかったのではないか。保健の授業では、性行動への注意喚起や生徒指導関連の話題になることが多い。複数の教科で似たテーマを扱うことの意義などを考えていきたい。					
4班 久米先生 知識、情報量の多い授業だったが、メリハリをつけて指導することで知識の習得だけでなく、生徒が思考し表現する場面や振り返りをさせることができていた。プリント2(3)について、地域、他人の定義をもう少し具体的にすることで生徒の思考の発展を促すことができたのではないか。					
3. 指導助言 部谷靖子主任指導主事 本時の内容はセンシティブな内容であったが、先生の工夫により前向きに取り組める雰囲気であった。齊藤先生は、この単元を8時間で構成されており、初めの時間に生徒が自身の課題を見つけ、単元全体を通してそれを解決するという、家庭科の授業で重要視される学習計画になっていた。また、協議のなかにもあった、保健や生物などの他教科との関連については、各教科ごとに生徒に身に付けさせたい見方や考え方が異なるため、それぞれの教科の学びを通して多角的に思考できるようにしてほしい。今回の授業は、家庭科では「親として」、このことを考えさせたい内容である。その点では、生徒					

【授業研究会記録】

がプリント2(3)において、高校生視点の思考に止まっていた様子が見られたため、次回以降の授業などでは、親や社会の一員として考えさせたい。また、年度当初の授業において、生徒は自身のライフプランを考える学習をしているので、そのことと関連付けることも効果的と考えられる。このように視点がずれてしまうような場合は、本時のねらいに立ち戻り、授業を展開していくことがよい。本時のねらいには、「子どもの健やかな発達を支えるために」という記述があり、「子どもの幸せ」とは何かに戸惑う生徒にとって、具体化した表現になっているので、こうした点を生かすことができたと考えられる。

研 修

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）のまとめ

教諭 渡辺 光

はじめに、研修を実施するにあたり、講義や授業研修等に協力いただいた先生方、選択研修や校外研修でご指導くださった方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。研修の振り返りと今後の課題についてまとめ、研修のまとめとしたいと思います。

本研修では、高校教育課、秋田県総合教育センター、校内の先生方など、多くの方々からご指導をいただく貴重な機会を得ることができた。まず、高校教育課実施の授業研修では、秋田北高校で物理の授業を行った。勤務校以外で授業を行うこと、研修教員2名で1時間の授業を行うことなど、通常とは異なる状況のなかで授業を行ったことで、教材観や指導観、指導方法の幅が広がったように感じる。今回の授業では電磁波をスマホで受信する演示実験や身近な電磁波の実用例を調べるグループワークなど、多様な学習方法を実践することができた。また、指導案の作成においても、2名で協働して取り組む中で、それぞれの指導の工夫や指導観を共有し、私自身の教材観を深めることができた。

選択研修では、秋田大学大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館の西川副館長の指導、助言のもと、博物館主催のジュニアサイエンススクールの運営補助や大学、博物館の教育の現状に関する研修を行った。巡検に同行し、鉱物採集を行ったことで、自身の専門でない地学分野の理解を深め、授業に生かせる貴重な経験となった。また、秋田大学や博物館の教育の現状について、実際に指導されている西川副館長からお話を伺った。高校卒業後の生徒の様子や大学、博物館の視点からの高校の教育への見解など、新たな視点や考え方を学ぶ良い機会となった。

総合教育センター研修では、教科指導だけでなく、キャリア教育や私自身のキャリアデザインについても学び、考える機会となった。中堅教諭という立場で学校経営にどのように参画していくのかという視点を得ることができた。校内研修および特定課題研究では、校内の先生方から指導や助言をいただきながら、諸研修に取り組んだ。教科指導では、教科主任の大関先生から指導案や授業の助言をいただいたり、協議をしたりするなかで、教科指導力の向上につながった。また、学級担任として様々な学校や学年、生徒を担当するなかで生じた課題や疑問などについて、生徒指導、特別活動、学年経営、保健室との連携といった多方面から助言や指導、協議ができ、課題解決や指導力の向上など、多くの収穫があった。ほかにも、学校評議員会を見学し、地域や関係機関との関わりについても知ることができた。私自身、異動して1年目であったため、研修を通して各主事、主任の先生方から本校の現状等を伺うことができたことで、本校の教職員の一人として取り組むべき責務を理解することができた。

今回の研修を通して、私が最も強く感じたことは、目の前の生徒一人ひとりの成長に多くの「人」が関わっているということである。教職員だけでなく、生徒の家族、インターンシップやボランティア等でお世話になる地域、企業、外部機関の方々など、多くの方々の協力や連携の重要性を学ぶことができた。そのなかで、学校や教職員の果たす役割の大きさを理解し、その一員として職務に取り組んでいきたいと思う。

研修を終えるに当たり、改めて研修に携わってくださったすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

A-34 高等学校新任学年主任研修講座 報告

教育専門監(兼)教諭 加藤 昌宏

【研修実施日】 I期：令和7年5月16日(金) II期：令和7年6月27日(金)

【研修の目標】 学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める。

【研修の内容】

＜講話＞ 望まれる学年主任像と学年主任の役割（I期）

・総合教育センター湯澤寛スーパーアドバイザー（SA）より、学年主任に求められる姿勢や心構え、学年経営にあたって留意すべき対策や対応について、豊富な具体例や実践例に基づく講話をいただいた。生徒からも職員からも信頼される学年主任であるためには、自らの信念や考えを明確にしてわかりやすく表現（「見える化」）することや、コーチングの基本である問いかけて聴くことを中心とした双方向コミュニケーションを意識することが必要であると気付く機会となった。また、生徒から話しかけやすい雰囲気をつくっての生徒対応や、共感をとまなう保護者対応の在り方について具体的なアドバイスがあり、課題解決に向けての合意形成や組織（学年）として取り組む必要性についても理解が深まった。「担任の強みを生かす」「一生懸命な先生には生徒もついてくる」「言葉は誤解を生みやすい」など、学年主任としても一教員としても常に心掛けるべき内容も多く、今の自分にできることを丁寧に取り組むところからあらためて大切にしたいと感じた講話であった。

＜講義・演習＞ 生徒指導における学年主任の役割（I期）

・総合教育センター高橋真理奈指導主事より、いじめ・不登校の理解と対応や、保護者との連携について、留意すべき点や具体的な対応例の詳細な説明があった。主な内容は以下の通り。

◆危機管理の「さしすせそ」……「さ」最悪を想定し、「し」慎重に、「す」すばやく、
「せ」誠意をもって、「そ」組織で対応する

◆問題行動の捉え方……問題行動は、生徒の「心の危機の叫び」
「困った生徒」ではなく「(課題を抱えて) 困っている生徒」

◆保護者との連携……大切なのは連帯感を生み出すこと、そのために「傾聴・受容・共感」

1. 保護者の怒り、不信の感情を「受け止める」
2. 教師の対応を「説明する」
3. どのような対応を教師に期待していたのかを「質問する」
4. 教師と保護者が連携して対応していくことを「確認する」

・いじめについては、情報を集めて「組織」で決定した事柄に基づき対応するという基本内容とともに、いじめをする生徒に対して、行為は厳しく指導しても人格は決して否定しないなどの

留意点が示された。また不登校については、県内高校で増加傾向にあることや、「生徒指導提要」から不適切な指導と考えられ得る例が示されるとともに、不登校対策につながる生徒指導や未然防止教育の説明があった。また保護者連携については、「基本的なことができていない」「正確な記録やメモがない」「組織として対応できない」「その場しのぎで、あいまいな約束」など不信感を招く対応例が示された。おわりに、生徒指導において学年主任が確認すべき項目が挙げられたが、何よりもまずはチームとして組織的に対応することが重要であり、傾聴力を特に意識して真摯に向き合うべきであると強く感じた講義であった。

<講話> 思春期の揺れと成長を共に歩む（I期）

- ・秋田赤十字病院心療センター丸山真理子公認心理師より、脳の働きや脳からみた発達の特徴に基づく、学校生活や対人関係などで問題を抱えやすい若者の特徴について、多岐にわたる内容の講話をいただいた。「スクールトラウマ」やその対応について、他者の気持ちを理解・想像できるようになる「感情の社会化」や感情のコントロールについて、問題になりがちな子へのタイプ別基本対応について、教師のストレス対策としてのセルフケアやレジリエンスについてなど、どれも学年で共有したいと感じる話題ばかりであった。なかでも、生徒に育みたい感情についての内容は、研修直後の学年部会で資料とともに共有した。その内容は以下の通り。

◆学生のうちにやっておきたいこと

①感情を育てる……感情の言語化を助ける

→ 気持ちを言葉にすることで落ち着けるように練習：内的制御

②境界線の感覚を育てる……自他の区別、公私の区別、ルールを守る練習：外的制御

③自分を制御する力を育てる……親や教師が自己制御の助けとなるよう存在する

→ モデルになる、複数の視点を与える、善悪の判断の練習

↓

- ・自分のことを自分で決められるように、助ける
- ・安全な所でたくさん失敗させ、挽回する方法を教える
- ・しっかり甘えさせ、頼れる人を増やすように関わる

◆セルフコントロール獲得のプロセス

大人① 守るべき「枠」（ルール・制限）を示す

→子供② 枠にぶつかって感情を表出（口答え）する

→大人③ 感情は認めるが、枠は変えない

→子供④ きちんと葛藤する 「待ってやるのが大人の仕事」

→子供⑤ 自己欲求の制御＝セルフコントロール

◆「境界線」の感覚を育てる

- ・物理的境界線（身体、物、場所に関するもの）
- ・心理的境界線（気持ち、思想信条に関するもの）
- ・社会的境界線（マナーやルール、法律など）

→ 人と人之间には安心・安全な距離があり、その境目が境界線
境界線を守る＝「自分」と「相手」を大事にすること

<講義・演習・協議> 学年経営と組織マネジメントの基礎（Ⅱ期）

- ・総合教育センター八柳英子指導主事より学年経営と組織マネジメントについて、同センター木村ふさ子指導主事よりキャリア教育の推進に向けての説明があった。学年主任に求められる、学校におけるミドルリーダーの機能として、①学校のミッションに対する教職員の理解を促進する機能、②管理職と教職員のコミュニケーションを活性化する機能、③学校組織のラインを強化する機能があげられた。そして、最終的に実現したいことを明確にイメージし、メンバーと共有し、実現したいという共感を得るために、学年主任には感化する力、すなわち「ビジョナリー・リーダーシップ」が必要とのことであった。また学校組織マネジメントに必要な「変える」「見つける」「つなぐ」の3つの視点を取り上げられ、学年組織マネジメントの留意事項として、①学年主任や副主任だけが取り組むものではなく、全学年部職員で取り組んでいくべきものである、②学年主任を中心に学年組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内、あるいは学校外との関係で、「連携と分担」による学年組織マネジメントを実現することが重要であるとされた。

<公開講演> 特別活動を要としたキャリア教育の推進（Ⅱ期）

- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課の長田徹教科調査官より、キャリア教育の実態や現状について、非常に密度の濃い講演をいただいた。他講座との合同実施であり、講演内容も小・中学校の取組事例が中心であったが、秋田県で長年にわたって継続実施しているキャリアノート「あきたでドリーム」の効果や影響力の大きさについて力説されていた。現在、教鞭をとられている東北福祉大学での、秋田県出身の学生との「あきたでドリーム」についての逸話も紹介された。重要性は理解しつつも、なかなか具体的な取り組みに繋がらないでいるキャリア教育であるが、何が将来に繋がるのかは、生徒にも教員にもわからないため、キャリアノートについても、何らかのプラスアルファを学年で工夫して生徒に還元したいと考えた。

<講義・協議> 学年経営の実際と運営（Ⅱ期）

- ・八柳指導主事、木村指導主事の指導のもと、各校の課題を明らかにし、その解決に向けた方策について考えること、また問題ではなく課題としてとらえ、対応していく視点を身に付けることを目的としたグループ協議を実施した。目指すべき学校・生徒の姿（目標）と、学校や生徒の現在の様子（現状）の差を「課題」ととらえ、その差を埋めるためにやるべき具体的な方策が指導計画であるとの理解のもと、各校でそれぞれの強みを紹介し合い、課題解決のアイデアを広げながら協議を展開した。協議を通じて、私なりに本校1年部の強みとして、生徒の真面目さ、受容力の高さや、旧3年部や本校勤務歴の長い教員の多さなどを挙げ、本校生徒の特長を生かしながら進路実現に必要な力を向上させることができる体制と捉えた。また課題としては、学校全体としての系統的・継続的な指導や、部活動を通じた生活指導の在り方などに改善の余地があると捉えた。この課題克服のためには、生徒との信頼関係を重視することを意識し、生徒の可能性を信じて、学年部の連携を強め、従来の取り組みにとらわれずに新規の工夫を重ねることが必要であると考えられる機会とすることができた。

「学校における ICT 活用の基礎 A」 報告 (令和7年8月19日)

教諭 和田 悦子

1 研修の目標

ICTの活用方法について理解を図るとともに、機器操作等について基礎的な知識と技術を身につける

2 研修内容

講師：秋田県総合教育センター 指導主事 小山 光春 先生
秋田県立秋田南高校 教育専門官 小西 一幸 先生

① 午前

講義「ICT並びにコラボレーションツールの活用場面と方法」

講義・演習「ICT並びにコラボレーションツールの基本的な操作・活用」

デジタル庁が2022年1月に公開した「教育データ利活用ロードマップ」では、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現がミッションとされていた。さらに2025年6月の策定では、「学ぶ人のために、あらゆるリソースを」というビジョンのもと、以下の5つの観点からの取組が整理されている。

- ・デジタル化による教職員の負担軽減
- ・多様な学びのための学習環境の整備
- ・データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実
- ・生涯を通じて学びのデータを活かせる環境の整備
- ・教育政策や実践にも資する教育データの研究目的の利用

人口減少が進む中で、限りが見えてきた日本の労働力をいかに効率よく活用していくかという観点は、国家レベルの課題でもあり、学校教育が果たす役割にも大きな期待が寄せられている。また、学校における教員の業務負担軽減を目的として、教育現場に適したクラウドツールの選定や導入、生成AIを活用した教材や文書作成の支援など、具体的な活用も始まっている。そして、あらゆる教職員がICTを使いこなすことが出来るよう、スキル研修の導入も進められている。

② 午後

講義・演習「生成AIの活用場面と基本的な操作」・リフレクション

参加者それぞれがGoogle Geminiを活用して基本的な操作を体験した。参加者自身が生成AIに作らせた問題を校種や教科の壁を越えて互いに解き合い、教材観が一新される場面もあった。「ハルシネーションは少なくなっている。むしろ、誤った情報を生徒に伝える人間(教師)の方が危ういケースもある。教育現場でも、生成AIを効率的に使うべきだ」という話が心に残った。

研 究 紀 要

第 4 5 号

2026年3月発行

秋 田 県 立 秋 田 西 高 等 学 校

秋 田 県 瀧 上 市 天 王 字 追 分 西 26-1
